

【理工学研究科 ソフトウェア工学専攻】ディプロマ・ポリシーに示された「力」とアセスメントの方法・指標

研究科専攻	課程	DPに示された「力」	アセスメントの方法・指標
ソフトウェア工学専攻	M	DP1：主専門領域であるソフトウェア工学の要素技術を、理学的基礎に基づいて理解し、ソフトウェアの分析、設計、実装、試験、運用、保守などに活用する能力	ソフトウェア工学専攻の基礎科目の成績評価により、ソフトウェア工学の要素技術をソフトウェアの分析、設計、実装、試験、運用、保守などに活用する能力を測定・評価する。
		DP2：主専門領域であるソフトウェア工学の要素技術の特徴と制約を理解し、目的にあった適切な技術を選択しながら開発を遂行する能力	ソフトウェア工学専攻の専攻科目、研究指導科目の成績評価により、目的にあった適切な技術を選択しながら開発を遂行する能力を測定・評価する。
		DP3：主専門領域であるソフトウェア工学における課題の性質を理解し、副専門領域である電子情報工学あるいは機械システム工学の視点も踏まえて、課題の効率的かつ効果的な解決法を提案できる能力	ソフトウェア工学専攻の専攻科目の成績評価、中間審査、修士論文等の審査および最終試験をとおして、課題の効率的かつ効果的な解決法を提案する能力を測定・評価する。
	D	ソフトウェア工学の考え方を中心とした複数のディシプリンに基づいて、ソフトウェア開発に関するあらゆる分野の諸問題に対して、先端技術から確立された技術までを目的に合わせて駆使することで、技術革新を主導する能力	中間審査、博士論文の審査、最終試験をとおして、技術革新を主導する能力を測定・評価する。

方法・指標	実施時期	対象年次	結果の活用	レベル※
授業評価アンケート	毎学期	修業年限内の 全年次生	専攻で実施し、アンケート結果を研究科 委員会で承認し、教育方法、研究環境の 改善に活用。内部質保証委員会からのメ タ評価と改善提案も同様に活用。	学位プログラム レベル/授業科 目レベル
研究倫理教育プログラム受講実 績	入学時（以降、3 年に1度）	初年次	研究推進課が実施し、受講実績を大学院 委員会および内部質保証委員会で報告し て、研究公正の実現に活用。	学位プログラム レベル/授業科 目レベル
学位論文計画書	所定の期日	修了年次生	研究指導の改善に活用。	授業科目レベル
学位論文	1月または7月	修了年次生	研究科で定める全専攻共通の学位論文審 査基準の達成度の評価に活用。	学位プログラム レベル/授業科 目レベル
修了者の就職先、進路状況、退 学者状況	修了時	修了年次生	就職先、進路、退学者の状況を把握し、 研究科で共有することにより、カリキュ ラムおよび研究環境についての自己点 検・評価・改善に活用。	学位プログラム レベル

※学位プログラムレベル：研究科専攻単位で実施 / 授業科目レベル：教員単位で実施

方法・指標	実施時期	対象年次	結果の活用	レベル※
研究倫理教育プログラム受講実績	入学時（以降、3年に1度）	初年次	研究推進課が実施し、受講実績を大学院委員会および内部質保証委員会で報告して、研究公正の実現に活用。	学位プログラムレベル／授業科目レベル
学位論文計画書	所定の期日	修了年次生	研究指導の改善に活用。	授業科目レベル
学位論文	1月または7月	修了年次生	研究科で定める全専攻共通の学位論文審査基準の達成度の評価に活用。	学位プログラムレベル／授業科目レベル

※学位プログラムレベル：研究科専攻単位で実施 / 授業科目レベル：教員単位で実施